

| | |
|----|----------------|
| 演題 | 「主体的な保育展開について」 |
|----|----------------|

| | |
|----|----------------|
| 副題 | ～人間が好きになって学校へ～ |
|----|----------------|

| | |
|-----|-----------------|
| 施設名 | K F J 多摩なのはな保育園 |
|-----|-----------------|

| | |
|---------------|-------|
| 発表者名 (職種名) | 大内 芦田 |
|---------------|-------|

| | |
|-------|------------|
| 共同研究者 | 糸瀬明日香、和賀友希 |
|-------|------------|

| |
|--|
| 《演題を取り上げた理由》 |
| カリ検討チームとして3年目の活動になり、昨年度全体のクラス反省で討議した結果、6年間の園生活で自分の好きな活動を十分に楽しみ、友だちや職員に思いを伝えあい、「人間が大好きになって安心して学校に通えるように」と考えた。そのために大切な事を【子どもたちの主体性】と捉え、今年度チームとして、“主体的な保育”を実践していく為、必要な事を討議し、実践を行うために、月案や週日案に、具体的に入れ込んでいく事で、誰がどのクラス担任になっても迷わずに保育が出来るガイドラインを今後作成していくことが大事だと考えた。 |

| |
|---|
| 《活動の成果と評価》 |
| ・主体的な保育展開を主軸に活動をしてきた。各クラスが展開してきた保育を振り返り、今後に繋げていけるように次年度のカリキュラムに反映できるように考えた。 ・特に幼児クラスでは、職員間でより子どもが選んだり考えたりする過程を大切に、子ども達自身が主体的に自己実現の喜びやそれに伴う自信が随所にみられた。 ・誰が担任になってもぶれないカリキュラムの必要性を感じ、次年度はなのはなバージョンのテンプレートづくりをしていく。 |

| |
|--|
| 《具体的な取り組み》 |
| ・1歳児クラスの見立て遊び ・2歳児クラスのごっこ遊び ・3歳児クラスの自由遊び ・4歳児クラスのサークルタイム 楽しく食べることについて ・5歳児クラスの運動会の取り組み ・4・5歳児遠足について ・幼児、芋ほりからのおいもパーティーについて ・幼児壁新聞の発行 |

| |
|--|
| 《今後の課題》 |
| ・今回の取り組みを経て、今後のカリキュラムに主体的な保育の取り組みを入れ込む ・乳児クラスのカリキュラムをなのはなバージョンのテンプレートを作る ・壁新聞をより頻回に出し、保育を分かりやすいよう保護者へ伝えていく。その作成ツールを発掘していく ・子ども主体の保育実践について、更に討議を重ねより密に関わる保育実践をしていく |

| |
|----------|
| 《参考資料など》 |
| |

| | |
|----|--------------|
| 演題 | いざという時にどうする？ |
|----|--------------|

| | |
|----|-------------|
| 副題 | ～防災知識を見直そう～ |
|----|-------------|

| | |
|-----|--------|
| 施設名 | つくし保育園 |
|-----|--------|

| | |
|---------------|-------|
| 発表者名 (職種名) | 黒川 斉藤 |
|---------------|-------|

| | |
|-------|----------|
| 共同研究者 | 富田 永田 吉瀬 |
|-------|----------|

| 《演題を取り上げた理由》 |
|---|
| ○日本各地で頻繁に災害が起きており、自園でも地震や気象情報を意識ながら保育を運営していたこともあり、災害時の対応・判断を見直す必要性を感じた。 ○昨年度川崎市の防災研修を受けて正しい知識を持って訓練に取り組んでいるかと疑問を持った。 |

| 《活動の成果と評価》 |
|--|
| ○日頃から保育士が伝えている言葉を子ども達はしっかり受け止めていることを実感する。 だからこそ、職員一人一人があらゆる場面に備える大切さを知る。 ○毎回訓練後に振り返りをしたことが共通認識につながり、防災意識が高まった。 |

| 《具体的な取り組み》 |
|---|
| ○外部の保育防災コンサルタント藤實ともこ先生を講師に招き、職員全体で研修を行った。 ○具体的に保育時に災害が起こった場面を想定して気が付いたことを意見交換をする。 ○子どもと一緒に身の守り方、安全な場所など色々話合う。 ○保護者に伝言ダイヤルカードを配布する。 ○防災リュックの中身の見直しをする。 |

| 《今後の課題》 |
|---|
| ○職員の防災意識を日頃から意識して継続し、また、子どもと一緒に振り返る。 ○今年度取り上げていない散歩時なども計画に取り入れて、保育設定のバリエーションを想定し対応策の引き出しを増やしていく。 ○伝言ダイヤルの定着を目指し、保護者の災害意識も高め、園との共通認識を持つ。 |

| 《参考資料など》 |
|--|
| つくし保育園防災研修 講師保育防災コンサルタント 藤實智子氏 「命を守る保育防災の基本と実践」 保育士のための保育防災ハンドブック 発行：一般社団法人 保育の寺子屋 |

| | | | |
|--|--------------------|--|-----|
| 演題 | 自己肯定感を育む取り組み | | |
| 副題 | 子どもまんなか・主体性をいかした保育 | | |
| 施設名 | よつば保育園 | | |
| 発表者名 (職種名) | 望月、鎌田 | 共同研究者 | 全職員 |
| 《演題を取り上げた理由》 | | 《活動の成果と評価》 | |
| <p>前回発表した園内研修の学びからモチベーションを上げ、明るく働くことで自分たちの自己肯定感をあげていくことができました。</p> <p>子ども達にも自己肯定感を持ってほしいという気持ちが益々大きくなった。自己肯定感を上げていくにはどのように保育をすればよいのか学びを重ねることにした。</p> | | <p>○自己肯定感を育てる為の保育はおのずと「主体性」と「子どもまんなか」になる</p> <p>○保育者も子どもも自己肯定感が高められた。</p> | |
| 《具体的な取り組み》 | | 《今後の課題》 | |
| <p>①コース保育 ②サンキューカード ③乳児の取り組み ④幼児（3,4,5歳児）の取り組み ⑤運動会の取り組み ⑥まとめ</p> | | <p>○乳幼児期の大切な時期に自己肯定感をつけていく積み重ねが重要であることを意識し、学び続け、保育を実践していきます。</p> <p>○よつば保育園で経験したことが自信につながり自己肯定感の高い子ども達がたくさん増えていくことを楽しみに私たちは継続していきます。</p> | |
| | | 《参考資料など》 | |
| | | <ul style="list-style-type: none">・川崎市子ども家庭庁「こどもまんなか社会」より・令和6年度川崎市保育所等職員研修「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」より・「0歳児から6歳児の自己肯定感を育む保育」今井和子著 | |

| | |
|----|------------------|
| 演題 | 看護師としての地域支援の取り組み |
|----|------------------|

| | |
|----|---------------|
| 副題 | ～専門性を生かした関わり～ |
|----|---------------|

| | |
|-----|--------------|
| 施設名 | 事業団保育園各園 看護師 |
|-----|--------------|

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 発表者名 (職種名) | うめのき保育園 西村(看護師) つくし保育園 秋元(看護師) |
|---------------|-----------------------------------|

| | |
|-------|---|
| 共同研究者 | まめの木保育園 川又 さくらの木保育園 藤野 よつば保育園 前川なのはな保育園 堰合 |
|-------|---|

《演題を取り上げた理由》

看護師会議を通して各園の情報交換を行うなかで「地域性」「生活環境」を理解し、子育て世代の悩みや看護師の地域支援活動状況について情報共有しました。

保育園は地域と家庭をつなぐ「親と子の育ちの場」としての大切な役割があります。子どもの健やかな育ちを促進するため、専門職として支援の在り方を探り、深め、地域のご家庭にも切れ目なく支援していく必要があると考え課題演目としました。

《活動の成果と評価》

- ・ 保育園看護師としての専門性の確認。
- ・ 6園の地域性の違い、子育ての悩み、地域支援活動などを共有出来た。
- ・ 自園の地域支援活動の見直しをしたうえ、自園の地域活動での活用が出来た。
- ・ 健康指導の新たな取り組みを知ることが出来た。
- ・ 看護師は子どもの健やかな育ちを促進するため、他職種と連携して子育て家庭に「切れ目のない保育」が提供していけるような取り組みを続けていくことの必要性を共有出来た。
- ・ 地域の特性を知り保育園が「親と子の育ちの場」として安心して来園していただける場となるように継続した取り組みが必要と理解。

《具体的な取り組み》

- ・ 6園の看護師が実施している地域支援内容(各園の共通点、独自のもの)の理解、健康教育の情報を確認。
- ・ 各園の地域の特性を生かして試行錯誤しながら活動を実施。
- ・ 保育フェアにて各園の看護師の指導の取り組みを確認し掲示物を作成し紹介。
- ・ 園内で行っている健康教育や他園より情報交換した指導を地域支援で実施。
- ・ 地域支援時、保育園看護師としての役割について考える。

《今後の課題》

- ・ 地域の子育ての悩みを看護師の視点からの地域支援活動により社会貢献へつなげる。
- ・ 6園で共有した「あいうべ体操」や「生活リズム」を共通理解し地域支援時に実施し活用する。
- ・ 保育園は未就園児等の窓口となるため、他職種と連携しながら、専門職種として支援する。
- ・ 看護師会議において、共有を継続して行い持続した支援を実施していくこと。
- ・ 専門職として正しい最新情報を知り、解りやすく伝達し続けていくこと。
- ・ 子どもが健康に育つために切れ目のない支援で、「親と子の育ちの場」として役割を果たすこと。

《参考資料など》

- ・ 子どもの豊かな育ちと地域支援
(監修：白井慎 編著：小木美代子 姥貝荘一 立柳聡)
- ・ なるほど呼吸学～あいうべ体操で息育
(著：今井一彰)